

【特別企画】

画論 20th The Best Image2012 受賞施設紹介】

画論 20th The Best Image2012

CT 1-32 列部門 (Alexion) 優秀賞受賞施設

天塩町立国民健康保健病院 様



写真：津田さん

受賞者：天塩町立国民健康保健病院 津田 健志

担当営業：東芝メディカルシステムズ（株）旭川営業所 桧山 健彦（1991年入社）

<担当営業から>

私、天塩町立国民健康保健病院様を担当させて頂いております旭川営業所（日本最北端地区担当営業）の桧山と申します。

この度、天塩町立国民健康保健病院様が画論に初応募頂き、CT 1-32 列部門「脳挫傷による微小出血」にて優秀賞を受賞されました事を担当営業として大変喜ばしく誇らしく私事のように感動に包まれ正に営業冥利に尽きる瞬間を感じる事が出来ました。（表彰式の御出席に際しましては、予約していた稚内空港発の航空機が大雪のため欠航となりあわやの事態でしたが…）

この場をお借りして、たった御一人で画論に応募を頂いた津田様、またその画像を高く御評価頂きました審査員の先生方に深謝申し上げます。

以下、今回初受賞されました天塩町立国民健康保健病院の津田様にインタビューを致しましたのでここでその内容の御紹介をさせていただきます。

<インタビュー>

➤ 津田様の経歴を教えてください。

1991年 北海道大学医療技術短期大学部 診療放射線技術学科 卒業

同年 札幌鉄道病院（現 JR 札幌病院） 入職（1993年退職）

1997年 天塩町立国民健康保険病院 入職

➤ 天塩町立国民健康保険病院の特色は？

町内唯一の医療機関であり、町民の“かかりつけ病院”として総合診療を担っています。

病床数 48 床（一般病床 30 床、介護病床 18 床）

放射線機器： 一般撮影装置、CR 装置、PACS、16 列 MSCT、X 線 TV（DR）、骨密度装置（DXA）、X 線ポータブル装置、外科用イメージ、エコー装置

➤ **Alexion 導入の経緯を教えてください。**

12年間使用した SSCT（シングルスライス CT）からの更新です。

➤ **Alexion に決めた理由を教えてください。**

赤字経営の続く当院の懐事情としては、4列マルチへの更新でイニシャルコストを抑える方針が濃厚でした。

技師・医師からの強い要望で16列マルチに更新する運びまで漕ぎ着けましたが、購入費・維持管理費・向こう10年間の診療コンセプトに見合う仕様であるかを議論する段階ではまだ、新製品 Alexion に選定とは至りませんでした。

最終的には、「“最新の”被ばく低減仕様が搭載していること」も重要要件に挙げられ、そこで Alexion に決まりました。

また、SSCT を使っていた頃、全く距離を感じさせないほどレスポンス良く天塩まで駆けつけ、CT を復旧させてくれた東芝技術者（旭川営業所）の実績も高い評価の一つでした。

➤ **CT の検査数と検査内容を教えてください。**

月 40～50 件ほど。 頭部・胸部・腹部の検査が中心です。

➤ **上記装置を使用されて良かった点、改善して欲しい点があれば教えてください。**

町内の歯科医院からインプラント術前 CT の依頼も受けるので、他社と比べ最小スライスが 1mm というスペックに若干の物足りなさを感じましたが、コストパフォーマンスを考えると Alexion（3.5M 管仕様）で良かったと思っています。

➤ **画論に応募されたきっかけは何ですか？**

旭川営業所からの案内です。（2回お断りして、3回目で承諾致しました。）

画論が 20th を迎えるので、“記念の参加賞でもあるかな？” という軽い気持ちで応募しました。

➤ **画論に応募された症例について、工夫された点、苦労された点などあれば教えてください。**

症的には目新しいものでもなく、当初、このような画像で応募したことに少し恥ずかしさを感じていました。

画像作成のきっかけは、初回検査で指摘できなかった出血の手掛かりを探すことでした。

長年、SSCT を使用してきたため、「3D 作成→ヘリカルスキャンによるデータ収集」が脳裏から離れず、Axial 像からこの部分を指摘しても臨床側は信用するかな？とただ眺めるだけでした。Alexion がリリースされて間もなく、コンベ 1mm 収集の頭部

MPR 像をフィルムで見て感心したことを思い出し、1mm コンベ収集の 3D 作成もありかな？と脳表モードで作成したのが今回の画像です。この画像により初診時に微小出血を指摘できた可能性も納得して頂けました。

➤ **受賞が決まった時のご感想は？**

正直言って、信じられませんでした。 技師一人の職場なので、平日に休みをとる手配が大変でした。

➤ **画論 2012 に参加された感想があれば教えてください。**

画論のディスカッションに参加できただけで大満足でしたが、上位入賞者表彰のステージを見てもう一度来てみたいと思いました。ステージ上で Aquilion ONE（心大血管部門）最優秀賞の NTT 札幌病院八十嶋先生が、とても眩しく見えたのが今でも印象に残っています。

➤ **この様なイベントを行うことについてどう思われますか？**

今回、幸運にも参加させて頂きましたが、画論の賞はとても大きな賞だと思っています。表彰された医療機関のプロパガンダにもなりますが、何よりも東芝ユーザーにとっては、日頃から常に最良の検査を目指そうという動機づけと励みになると思います。放射線技師が検査に込めた成果を、第一線で活躍されている先生方に評して頂ける機会は非常に貴重であり、今後も大切に続けて欲しいと思うイベントです。是非、東芝画論、歴史を重ねていって下さい。

➤ **他のユーザー様に向けて何かコメントがあれば教えてください。**

Aquilion ONE を筆頭に 64 列以上の CT の話題に何かと心を奪われますが、医療現場では 16 列以下の CT も大活躍しています。 探究心をもって日々の検査に臨めば、16 列以下の CT から新たな発想や発見があるのではないかと思います。頑張りましょう。

➤ **東芝メディカルシステムズに期待することがあれば教えてください。**

表彰式後の情報交換会の冒頭で、「東芝メディカルはマンチェスター・ユナイテッドに最新の医療機器を協賛する公式パートナーで、マンチェスターUとともに世界に誇る一流の技術を目指していく」という挨拶がありました。

東芝メディカル社のリーディングカンパニーとしてのプライドと覇気に、東芝ブランドの医療機器を更なる高みへ進化させる気概を強く感じました。また一方で、裾野の広い診療を展開しなければならない地域医療のニーズにもしっかりと応えてくれる心温かい医療機器メーカーであって欲しいと期待もしています。

➤ **北海道 CT 遠友 ser 会に期待することを教えてください。**

北海道 CT 遠友 ser 会の発足は、地域医療の現場で孤軍奮闘されている技師さんの学ぶ意欲と検査力向上を後押しするものと期待しています。地理的環境や職場体制から、各地方で行われる勉強会・講演会に足を運ぶのが難しい施設も現状として沢山あるので、技術学会誌・医療雑誌・ヘリカル CT 研究会の DVD などに頼っていった私としても非常に期待するところが大きいです。

地域医療と言えば、医師不足・看護師不足など医療の閉塞感や将来に展望が見られないなど嘆かわしい状況ばかりを耳にしますが、CT に関しては数年前までハイスペックとされていたクラスの CT が現在ではスタンダード機として地域医療の現場にも普及し、また遠隔画像診断サービスなども利用できる時代になっています。

北海道 CT 遠友 ser 会の情報発信から、“CT で地域医療を変える” くらいの勢いで、現場の放射線技師だけでなく地域医療全体に元気を与えるような頼もしい会に発展されることを期待しています。

最後に、北海道 CT 遠友 ser 会の発足を記念して、東芝 CT ユーザーの一人としてこのような取材を受ける機会を頂いたことにお礼と感謝を申し上げます。

